

令和7年度 第2回 知立市地域ケア推進会議



令和8年2月2日(水)
知立市長寿介護課

地域ケア会議の位置づけ



地域ケア会議の位置づけ

【介護保険法第115条の48(会議)】

実施主体	市、地域包括支援センター
目 的	① 支援が必要な被保険者への適切な支援の充実を図る ② 地域において自立した日常生活を営むために必要な支援体制の検討
検討事項	① 高齢者等の健康上及び生活上の課題解決に資する支援の内容に関すること ② 地域における介護の提供に携わる人や関係者の連携強化に関すること ③ 支援対象高齢者等に共通する課題の把握に関すること ④ 地域における介護の提供に必要な社会資源の改善および開発に関すること ⑤ 地域における自立した日常生活の支援のために必要な施策および事業に関すること
構 成	介護支援専門員、保健医療及び福祉に関する専門家、民生委員その他の関係者、関係機関及び関係団体等

知立市の人口および高齢化率等の状況



知立市の人口および高齢化率等の状況

【人口と高齢者数の経年推移】

	人口(増加率)	65歳以上	75歳以上	85歳以上	高齢化率
令和3年	72, 277	14, 541	7, 271	2, 139	20. 1
令和4年	72, 011	14, 637	7, 444	2, 226	20. 3
令和5年	72, 062	14, 709	7, 781	2, 343	20. 4
令和6年	72, 302	14, 813	8,164	2, 429	20. 5
令和7年	72,795	14, 921	8,444	2,514	20.5

＊2025年、団塊の世代が75歳以上の後期高齢者となり、5人に1人が後期高齢者。

＊2050年には団塊ジュニア世代が75歳以上の後期高齢者となり、高齢者人口がピークとなる予想。

＊世帯主が65歳以上の独居世帯や夫婦のみ世帯の増加

＊認知症の方は3人に1人。

→支援の必要な高齢者が増加することが予測されます。

令和4年～6年度の課題と取り組み状況



令和4年度～6年度の課題からの取り組み状況（1）

	現状及び提言	取り組み
通いの場	・元気なうちから地域との関係づくりが必要。 ・家の近くに出かけられる場所があるとよい。 ・スマホやインターネットをされる方など多様になってきている。自分で出かけるのが大変でも自宅でできる方はインターネットが活用できるとよい。 ・総合事業(サービスC)を卒業後、活動の場につながらず状態が再び悪化していることがある。	○まちかど運動教室の拡充 ○オンラインまちかどの周知 ○サービスC卒業後の地域への接続支援に生活支援コーディネーターが関与する仕組みづくり
ケアマネジメント	・高齢者の意欲の引き出し方、目標の設定方法が難しい。	○意欲関心シートの活用推進 ○自立支援の勉強会(ケアマネ、包括対象)

令和4年度～6年度の課題と取り組み（2）

	現状及び提言	取り組み
孤立、 認知症	・介護サービス導入が困難な身寄りのない認知機能の低下がみられる高齢者夫婦がいる。 ・地域で実態が把握できない認知症高齢者がいる。 ・未把握の高齢者を減らしたい。	○認知症カフェの拡充 ○チームオレンジの発足支援 ○シニア元気食堂 ○健康状態不明者把握（保健センターとの一体的実施事業）
若い層への 支援	・企業を巻き込んで定年前の人に、後見、介護保険など啓発を行う。 ・認知症と車の関連で、販売店と結び付けてはどうか。 ・自分の未来を想像（創造）する場を提供したい。 ・若い層や男性を取り込めるような場所があるとよい。 ・若いうちからの意識づけが必要 ・結果を数値化すると人が集まるのではないか。	○シルバーカレッジ ○新すこやかプログラムの実施 ○スポーツクラブ講師による体操教室の実施 ○まちかど測定会の実施（R6～） ○タブレットも用いた脳の健康度チェック & 認知症予防教室の開催（R6～）

令和4年度～6年度の課題と取り組み（3）

	現状及び提言	取り組み
骨折転倒 予防	・骨折・転倒をきっかけに外出の機会が減る。 ・自宅内の環境整備について70歳代ころから意識してもらう。包括かわら版等で周知する。 ・栄養・歯の健康についても併せて周知する。かわら版の周知、サロンで学ぶ機会を作る。 ・市が取り組んでいることの周知し市民に広く意識化。	○転倒骨折予防について、包括かわら版や家族介護教室で情報提供 ○リハビリ専門職による専門職向け勉強会 ○シニア元気食堂での保健師、栄養師による支援（保健センターとの一体的実施事業）
地域での つながり づくり	・健康麻雀のように、楽しく参加できる場の増加。楽しく参加しつつ、介護予防について学べる場があると良い。	○健康マージャンの開催、指導者育成講座の開催
情報周知	・転入者に対する支援。地域とつながるきっかけづくり	○保険証発送時に通いの場や相談先の情報提供チラシを同封（R8～予定）

令和7年度第1回会議の助言と その後の取組状況報告



令和7年度 第1回地域ケア推進会議まとめ(1)

「これまでの取り組みの報告等より」

	助言・提言
転入者への支援	・11月に実態調査を実施しているものの、民生委員への定期的な転入者の情報提供は難しい状況。 ・転居手続きで市役所に来る方に地域の情報が渡せるとよい。 ・民生委員と包括支援センターとの日頃からの連携が大切。
地域の通いの場	・高齢者が楽しみをもって参加できる場をつくっていくことが大切。 ・高齢者が何に興味をもち、地域の場に参加しているかを把握する。
転倒予防	・転倒予防では下肢筋力やバランスの評価が重要。 ・住民の方に市が実施している取り組みを周知し、広く意識化していくことにより予防的視点にもつながる。
オンラインまちかど	・参加者にポイントを付与するなど参加意欲を高める工夫ができるとよいのではないか。

令和7年度 第1回地域ケア推進会議まとめ(2)

「多職種連携会議から把握した課題」

課題	めざす姿	助言・提言
退院後の筋力回復・意欲向上のための支援	体力が回復し元の生活を早期に取り戻すことができる。	・何度も転倒骨折を繰り返す方がいる ・初期の段階で転倒を繰り返さない対策や取り組みができるとうい ・入院中は退院がゴールになってしまい、退院して在宅に戻るときに、在宅生活のスタートとしての意識がもてるよう病院と地域間の連携について取り組めるとよい ・退院調整会議に本人自身が会議に参加することが大切。本人への意識づけや目標設定の面では本人参加が必要。 ・退院調整会議が難しければ、地域ケア個別会議を活用できるといい。
健康への意欲を維持する	自身のやりたいことに取り組め、健康であり続けたいと思う気持ちももてる。	・地域の中で本人が参加できるところをつくっていいとよい。 ・本人の声を聞くことが大切。 ・同年代の高齢者がどのような目標や楽しみを持ち、地域の活動に参加しているか、成功体験として要素を探れるといい。 ・ボッチャなど誰もが取り組めるものをどう広げていくか検討できるとよい

令和7年度 第1回地域ケア推進会議まとめ(3)

「地域ケア個別会議から把握した課題」

課題	めざす姿	助言・提言
認知機能低下に伴い金銭管理や判断が難しくなる	認知機能低下となっても適切なサービスや支援を受け生活を維持継続できる	・息子による経済的虐待という入り方をすると関係性が悪くなる。息子自身の困りごとに寄り添う。 ・8050問題、障がい、就労に課題を抱えるケースは、経済的虐待のリスクのあるケースとしてとらえ、関係者を巻き込んで支援する。 ・日頃から障がい分野と高齢者分野同士の勉強会などつながりをつくる。
障がいをもつ同居家族への支援	関係機関と連携し・家族に寄り添い、家族の負担が軽減できる。	・障がいをもつ子どものいる家庭に対して、親自身が今後の生活の見通しを学べる機会をつくれるといい。 ・両親の死別とともに年金が途絶え、生活保護になる可能性がある。一歩手前で自立を促すための相談から就労準備等の自立支援につなげることが大切。 ・eスポーツなど高齢者だけでなく、子どもや親子でも参加できる場があるといい。

会議後の取り組み①

男性の通いの場・楽しみを持って参加できる場所について：健康麻雀の実施（社協）

健康麻雀とは・・・「賭けない・飲まない・吸わない」というルールのもと、健康づくり・仲間づくりが目的とされている。

さらに知立市においては開始前に体操を組合せることで筋力アップも図る。

【今年度実施内容】

① 健康麻雀講座の実施

通いの場の創出と認知症予防を兼ね、初心者向けの講座を実施。

最初の30分は理学療法士監修で作成した「健康麻雀体操」を実施した。

② 健康麻雀リーダー研修の実施

地域で既に実施している団体の主催者向けに研修を実施し。地域でのリーダーの役割や「健康麻雀」の趣旨を理解していただき実施していけるように説明。

【参加実績】

① 初心者要請講座（全8回）×2クール 参加者計44名

② リーダー研修 （1日） ×2クール 参加者計13名

会議後の取り組み① 男性の通いの場・楽しみを持って参加できる場所について：健康麻雀の実施（社協）

【実施して見えてきた課題】

- ・既に地域で麻雀を実施している地域はあえて健康麻雀（体操もセット）としてやる希望がない
- ・麻雀そのものを楽しみたい方は多くいるが、健康麻雀として実施する場合のニーズが少ない可能性がある。

【今後の進め方】

- ・社協で入門講座の継続をし、地域に参加しやすい状況を作る。
- ・地域で教えたり、サポートができるリーダーを養成していきたい。
- ・地域（町内単位）で健康麻雀のグループを立ち上げる人向けにボランティアセンターに登録後、補助金を出す。

令和8年5月から地域のサポーターによる生活支援制度を開始します！

制度の概要

01

対象者及び費用

- ・ 北部圏域（知立小、来迎寺小学区）にお住まいの方で、事業対象者または要支援1、要支援2の認定者かつ独居または65歳以上の方のみの世帯
- ・ 30分未満300円

02

支援体制

- ・ ボランティアセンター内に相談窓口（知立市ささえあいセンター）を設置
- ・ 地域の生活支援コーディネーターが困りごとの詳細を聞き取り
- ・ 初回の支援は生活支援コーディネーターが同行

03

サポーターの養成

- ・ 2月から開始
- ・ 18歳以上ならどなたでも登録可能
- ・ 活動に対する保険代は市が負担

会議後の取り組み②退院後の早期支援の取り組み 在宅療養の手引きの作成

知立市在宅医療・介護連携推進協議会にて 「はじめての在宅療養の手引き」を作成中

<内容>

入院を機に介護申請やご家族による介護をスタートされる方に対して、在宅療養のイメージ作りや退院に向けた準備について掲載ページを作成。

○退院するにあたっての準備

- ・退院は在宅生活のスタートとして明記。
- ・退院までに準備しておいてほしいことに「自宅内の環境整備や専門職職種への相談」を掲載している。

○用途

- ・ケアマネジャーや包括支援センター職員が本人やご家族へご案内等をする際にご活用いただきたい。
- 家族介護教室や市役所窓口にて活用を予定している。

「みんなのあんしん介護保険」に リハビリテーション活動支援事業の案内ページ作成

リハビリテーション活動新事業・・・外出や家事、体力の衰え等の不安や生活の困りごとを抱えている方を対象に、リハビリ専門職がご自宅に訪問し、一人ひとりの望みや目標に向けた支援を行う。

対象者：65歳以上の市民であり、体力の衰えや心身への不安がある方

費用：無料

相談先：東部地域包括支援センター（担当エリア：知立小、来迎寺小、八ツ田、知立東小学校区）

西部地域包括支援センター（担当エリア：知立西小、猿渡小、知立南小学校区）

会議後の取り組み③退院後の早期支援への取り組み サービスCの周知チラシ作成

サービスC

「やるっぴ短期集中リハビリ」市民啓発チラシの作成

対象者:事業対象者

実施場所:老人福祉支援センター、老人保健施設

内容:通所28回、訪問2回（週2回程度、約4～6か月）

個別のプログラムを作成し、リハビリ専門職が本人の目標や望む生活の実現に向けてサポートします。

配布方法:要支援者の更新申請の通知への同封、必要時配布

会議後の取り組み②骨折予防への取り組み リハビリ専門職による研修会

令和7年11月20日(木)知立市ネットワーク会議にて

自宅で出来る環境整備からはじめよう！ ～転倒予防について～

講師

堀山 貴之氏【理学療法士】おんじいのへや知立店

参加者(計41名)

市内ケアマネジャー、包括支援センター職員、訪問看護ステーション、デイサービス従事者、医療機関看護師、福祉用具事業者、刈谷医師会等

令和7年度 多職種連携会議報告及び 地域課題について



令和7年度 多職種連携会議の実績について

多職種連携会議は、個別事例の自立支援「から」学び、自立を促進する要因や地域課題の種を見つける場とする。

◇運営主体：地域包括支援センター

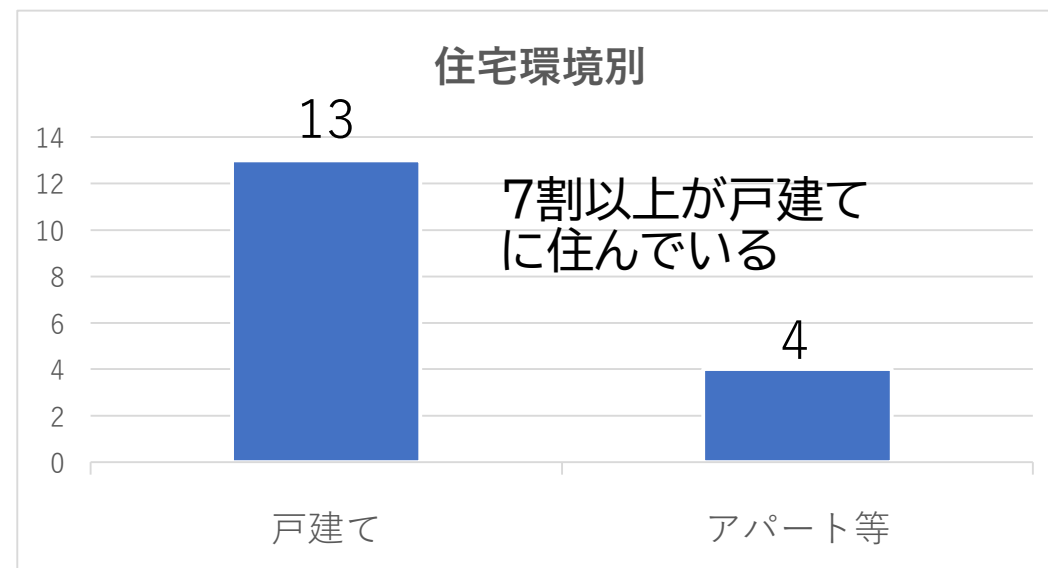
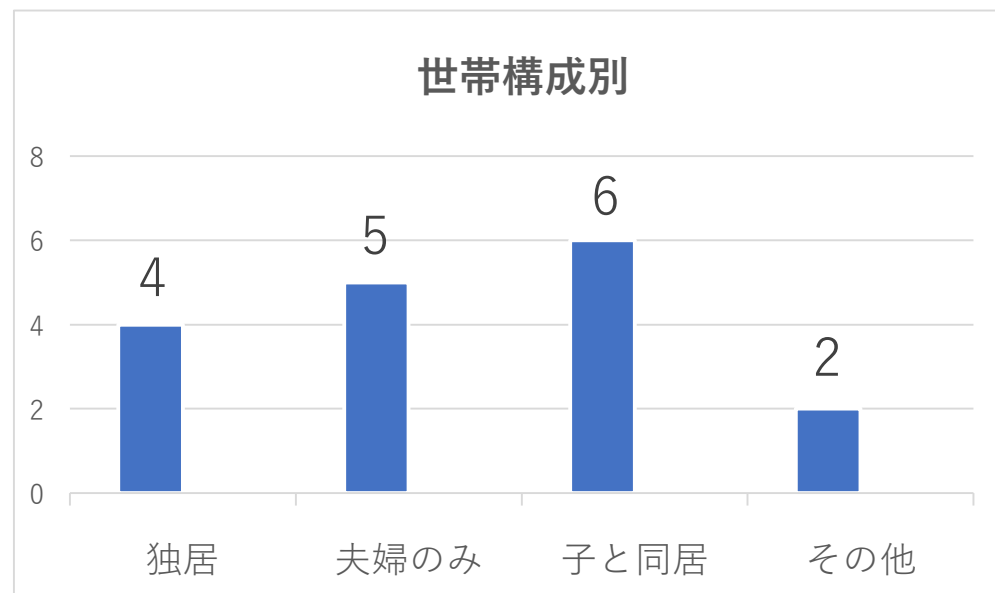
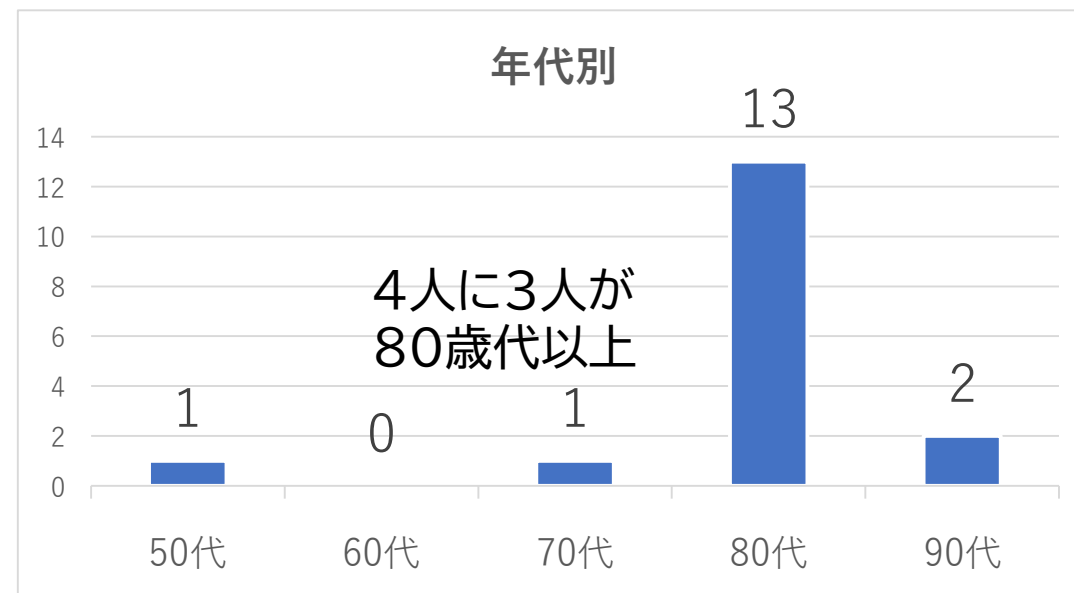
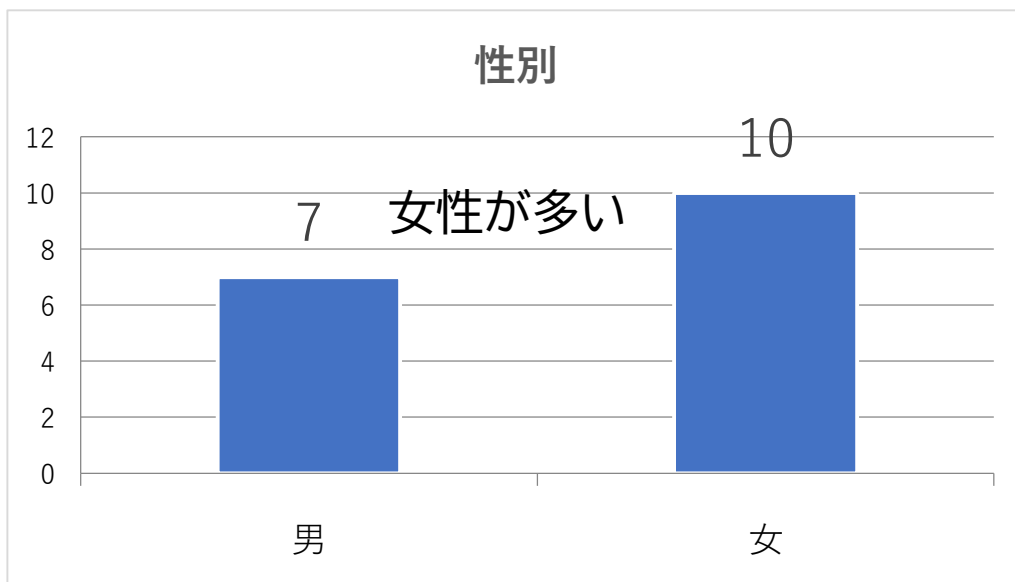
◇開催：月2回(事前会議、当日会議月各1回)

◇主参加者：行政、包括支援センター職員、担当ケアマネジャー、サービス提供事業者、介護福祉士、理学療法士、薬剤師、医療機関、生活コーディネーター

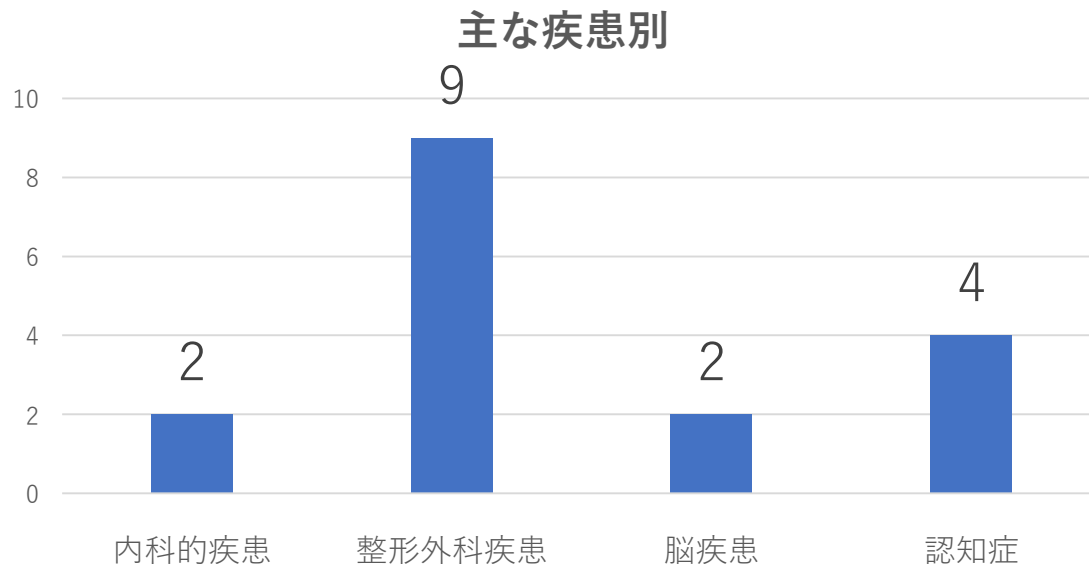
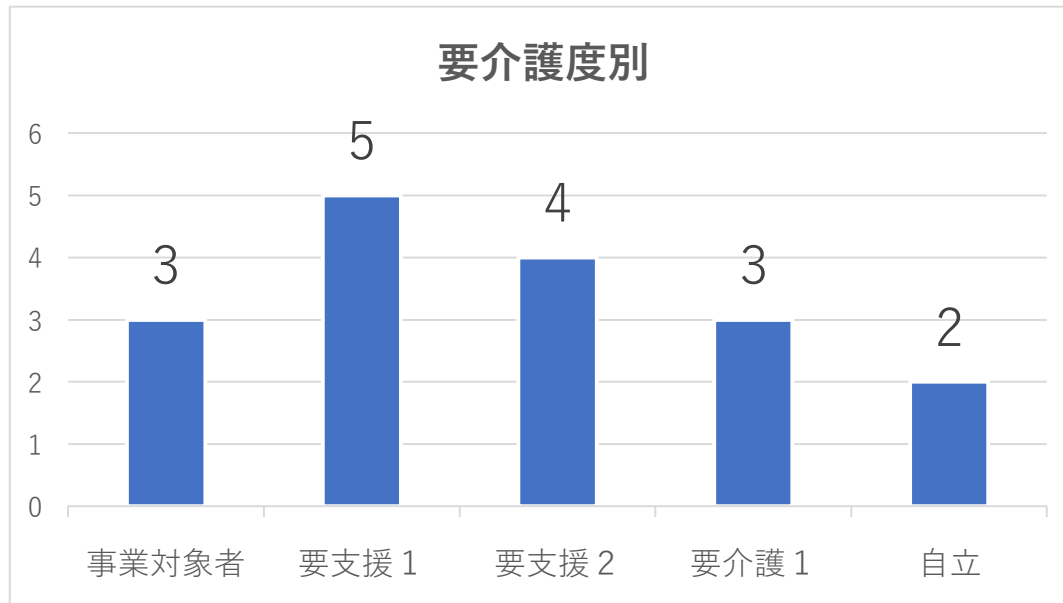
	実施回数	検討事例数
多職種連携会議	16回	17件※

※令和7年3月～令和7年11月に検討した数

多職種連携会議にて検討した事例の内訳(性別・年齢・世帯構成・居住環境)



多職種連携会議にて検討した事例の内訳(介護度・主な疾患・認知症日常生活自立度)



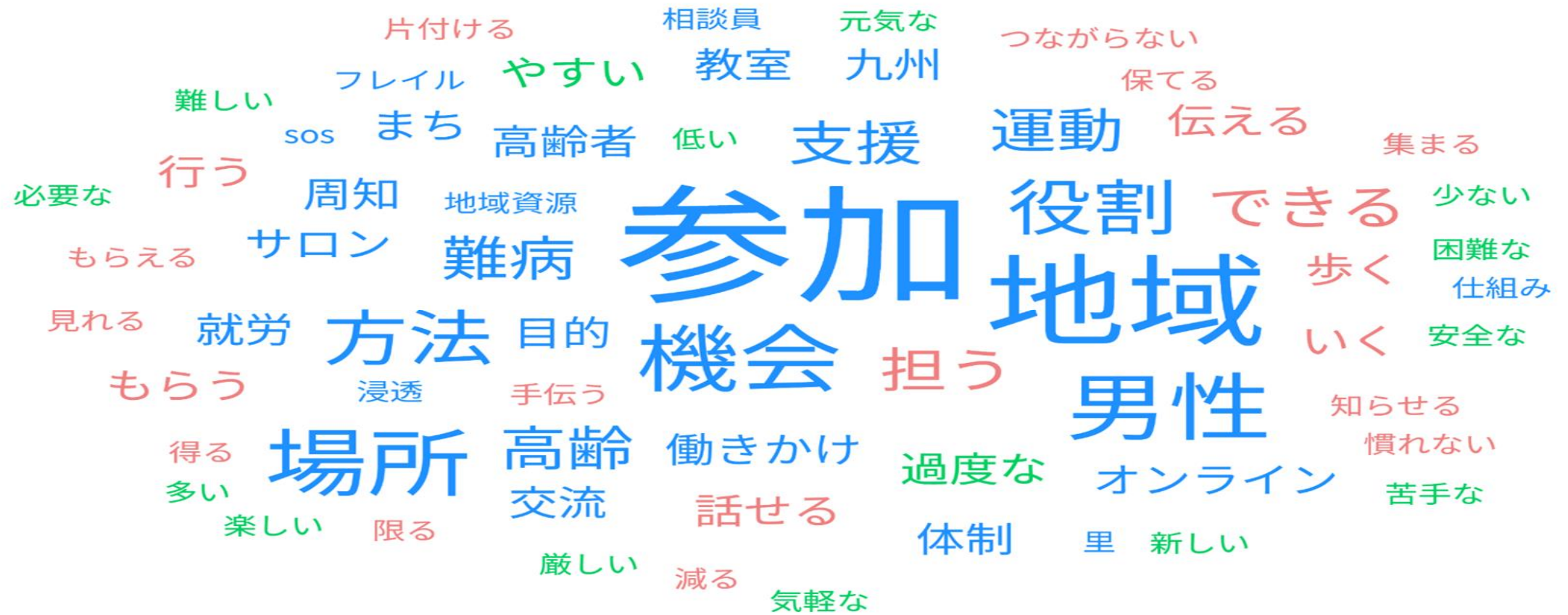
整形外科疾患では骨折、
脳疾患では認知症が多い

周りに迷惑をかけずに自分の
ことは自分でしたい。だけど
いつまでできるか少し心配



多職種連携会議にて抽出された地域課題の整理

テキストマイニングを用いて出現頻度が高いワードを抽出



多職種連携会議の検討より整理された地域課題

多職種連携会議の分析から 見えてきた課題	課題に対する現状の取り組み状況
高齢者にもわかりやすい 情報発信	・広報、ライン、町内回覧板、包括かわら版で地域の高齢者へ情報発信を行っている ・認知症サポーター養成講座や出前講座（介護予防、ACPなど）を開催し、知識の普及啓発に取り組んでいる ・シルバーカレッジやシニアのためのお仕事フェアでは、老後の暮らし方などをテーマに講座を開催している。 ・包括支援センターに社会資源情報がある ・高齢者の暮らしの相談窓口を包括支援センターに一本化し相談先をわかりやすくしている ・包括支援センターについて薬局、病院にもチラシを置いている
誰もが通いやすい通いの場 ・サポート	・趣味に合ったサロンや地域の活動の場を生活支援コーディネーターから紹介してもらえる仕組みがある ・生活支援コーディネーターと同行しまちかど運動教室や地域のサロンに通えるようになった方がいる ・まちかど運動教室に通えない方に対して、オンラインまちかどの利用支援を行っている ・市内全域から通えるまちかど運動教室は、ミニバスが止まりやすい場所で実施している ・認知症カフェでは予約なしで誰でもだれとでも参加できる場をつくっている ・認知症家族の会を本人ミーティングと同時開催することで、家族が本人を自宅で待たせることなく、一緒に参加でき安心して相談できる体制を整えている

多職種連携会議の検討より整理された地域課題

多職種連携会議の分析から 見えてきた課題	課題に対する現状の取り組み状況
移動に関する暮らしの支援	・免許返納により、買い物困難、外出控えにつながっている方がいる ・免許返納に伴い割引サービスを受けられるものがある ・買い物が困難な方に対して、移動販売の買い物支援に応じている ・高齢者サロン「よりみち」が一緒にミニバスに乗れる機会を設けている ・ミニバスに乗ったことがない、乗り方がわからない方がいる。福祉健康まつりでミニバスの乗り方体験を実施している ・ミニバスの運行、乗り方、ミニバス活用のモデルコースがHPに掲載されている ・75歳以上はミニバス無料パスカードが配布されている ・企業や民間のボランティアグループが外出支援を行っている ・運輸局での福祉有償運送の制度が緩和されている
地域の男性が活動できる 機会	・高齢者サロンや老人クラブなど地域の役員や選挙の時の手伝いの場、スクールガード、送迎バスなどに男性が活躍している場面が多い ・シルバー人材センターが開催する男の料理教室に男性の参加が多い ・健康マージャンには男性が多く参加している ・農作業やおもちゃの修理をする団体は男性が多い ・シニアのお仕事フェアへの参加者には男性が多い

多職種連携会議の検討より整理された地域課題

多職種連携会議の分析から 見えてきた課題	課題に対する取組の方向性の意見
高齢者にもわかりやすい 情報発信	・包括支援センターを知らない方に向けてわかりやすい周知を行う ・広報等周知する媒体を高齢者向けに大きい字、カラーにすること、QRコード、写真や動画の活用を検討 ・音声発信など耳から入る情報発信の検討 ・電光掲示板で目から入る情報発信を増やせるといい ・遠方に住むご家族にも高齢者の相談先や相談のタイミングがわかるような情報発信を検討
誰もが通いやすい通いの場 ・サポート	・生活支援のボランティア支援による地域の活動の場への同行支援が充実していけるといい ・認知機能低下のある方に対する声かけ、見守り、傾聴ボランティアについてオレンジメイト（認知症ボランティア）とマッチングができる体制を整える ・子ども向けの認知症サポーターの育成 ・通いの場へ行くまでの高齢者サロンバスのような移動手段 ・高齢者サロン開催日に合わせて移動販売車を調整し、行くと何かプラスになる仕掛けづくり ・健康麻雀を地域で実施できるようリーダー育成研修を実施し、地域単位で健康マージャンを広めていく

多職種連携会議の検討より整理された地域課題

多職種連携会議の分析から 見えてきた課題	課題に対する取組の方向性の意見
移動に関する暮らしの支援	・免許返納により受けられる割引やサービス部分も伝えていく ・老後の交通手段の一つとしてミニバスが活用できるよう、乗車に対する不安を軽減できる試乗会などの取り組みがあるとよい ・ミニバスの乗車時やサロンまでの移動の際に支援してくれるボランティアがいるといい(歩行器を一緒に乗せてくれる等) ・高齢者サロン「よりみち」の取り組みなどを他のサロンに知ってもらうなど、良い取り組みをしているサロンの取り組みを横展開して知ってもらう機会あるといい ・ボランティアポイント制度の導入
地域の男性が活動できる機会	・希望すれば長く働けるような支援、サポート ・60才～70才など年齢を重ねる前からの支援 ・男性が興味のある内容を把握 ・認知機能低下のある方で、ボランティア活動の希望がある場合はボランティア先として、介護保険サービス事業所と連携していけるといい

地域個別ケア会議について

ご助言いただきたいこと

多職種連携会議の分析から見えてきた課題に対して、各々のお立場から現状を踏まえ、今後の取り組みについてご助言をお願いします。

※ご助言の際の留意点

知立市(行政)の取り組みに対するご意見や各専門職や地域で取り組めることなどの視点からご意見をお願い致します。

令和7年度 地域ケア個別会議報告 および地域課題について



地域個別ケア会議について

地域ケア個別会議とは

複合的な問題を抱える困難事例等について、関係機関と対応方法を検討し、関係者間で共通認識を図るとともに介護予防や認知症施策等さまざまな施策に関する積極的な意見交換の場とする。

- ◇主 催 : 知立市地域包括支援センター(東部・西部)
- ◇開催頻度 : 隔月1回(案件がない場合は開催しない月もある)
- ◇目 的 : 個別ケース事案の対応について検討(助言・指導・意見交換を行う)
- ◇効 果 : 個別ケースの対応方法の決定、関係者間での共有認識等
- ◇主参加者 : 行政職員、包括支援センター、ケアマネ、民生委員、社会福祉協議会等

令和7年4月～令和7年10月までの 地域ケア個別会議報告

令和7年4月から令和7年10月までの地域ケア個別会議案件一覧

	月	年齢	性別	認定	家族構成	特記事項
ケース1	8月	76歳	女性	要介護1	同居(姉、義兄)	知的障害を持ち、介護施設にて他者への過度なスキンシップによる怪我等のリスクや、職員の制止を聞かない等の問題が多く、通所困難になる
ケース2	10月	83歳	女性	要支援1 ↓ 要介護5	同居(夫、長男) 別居(弟、次男)	本人…パーキンソン病、抑うつ神経症、不安症 夫…要介護4、本人の病気に対して理解が乏しい 長男…30歳頃より引きこもり(現在54歳)、父と不仲 次男…県外在住、生活困窮、本人にお金の無心あり 弟…県外在住、支援者

	課題	支援者(市、包括以外)
ケース1	知的障害を抱えながら通所介護を受けられる環境が整っていないことが課題	施設職員 ケアマネ
ケース2	自身の病気を抱えながら家族の生活も支えていかなければいけないことが課題	自立支援センター職員 ケアマネ

地域ケア個別会議の事例から課題を検討する

課題解決に向けて検討したこと・地域課題の検討

	検討事項・地域課題
ケース1	・本人が意識していないところで周囲との良い距離感・雰囲気を作れるような工夫が必要である。 ・障害福祉サービスと介護サービスとのはざまで、どちらも受け入れにくい状態にあるため、共生型のサービスができないか研究・検討が必要である。
ケース2	・本人の不安や負担を少なくできるようにメンタルケアができる訪問看護の介入や、介護に関して長男へ一定の役割を持たせることで、社会復帰の足掛かりにできないか等、周囲の環境整備についての検討が必要である。

地域ケア個別会議案件から見える傾向

- ・高齢者に対する支援とそれ以外の支援という複合的な状況が増えている

地域課題について(地域ケア個別会議)

事案から見える課題

- ・高齢であることや介護に関する悩みだけではなく、本人を取り巻く環境やその他の状況により問題が発生しており、多面的な支援が必要であること
- ・その一方で、そういった複合的な状況の支援体制や施設等が確立されていないこと

地域課題への取り組み

- ・重層的な支援ができるような支援体制の構築を検討する
- ・対象者や家族がお互いの状況を理解し、支えあう体制を整えられるよう支援する
- ・支援策が見つからない場合は、地域ケア個別会議等で共有する

地域課題の検討について(地域ケア個別会議)

課題	現状
高齢や介護だけではなく、本人を取り巻くその他の状況や環境により支援が限られてしまうこと	・介護の観点のみで支援の方策を考案することには限界がある ・対象者の支援だけではなく、取り巻く環境の整備についても支援する必要があるが、そのためのノウハウが十分でない

目指す姿

- ・高齢者に適切なサービスを受けてもらえるような環境づくり、体制づくり

地域課題の検討について(地域ケア個別会議)

ご助言いただきたいこと

介護に関する問題だけではなく、その他の問題に起因して支援に繋がらないことがある。

従って、上記のような環境でも高齢者に適切なサービスが受けもらえるような環境づくりについての先進事例等の情報がありましたらご紹介ください。

※ご助言の頂く際の視点について

めざす姿を達成させるための

- ・地域課題への解決策、方向性について
- ・需要に見合った資源開発の検討について
- ・現在ある社会資源や取り組みに対する工夫や連携等について

など